

林業普及現地情報
2015-24号(通算275号)
平成27年12月15日
遠野農林振興センター
記述者 伊東茂敏

第3回遠野地区林業技術研修会の開催

1 はじめに

遠野農林振興センターでは、今年度の取り組みとして、林業技術の向上を目的に、遠野地区林業技術研修会を開催しています。

今回の研修は森林の適切な管理を行っていくため、森林資源の蓄積量や林分の現状がどうなっているかについて、平成27年12月8日(火)に県有模範林笠之通山事業区を研修地として、森林組合・国生協・森林協・森林所有者16名が参加して研修会を開催しました。

2 収穫表を用いない簡易な立木調査の手法について

今回の講師は、元県職員で現在は小岩井農場山林部で森林経営アドバイザーをしている鈴木信男さんをお願いして、研修会を実施しました。

研修会の肝は、収穫表を持ち歩かなくても、ha当たりの森林の蓄積量を概算で見積もりできる手法で、現地での作業手順についてお話しをしていただきました。



現地研修会

3 参加者全員による予想材積の試算演習

鈴木さんの講義の後、参加者が3班に分かれて、それぞれ輪尺、直径巻尺、測高器、メートル縄、4m竿等を用いて、スギ45年生の林分に数箇所のプロットを設定して、予想材積の演習を行いました。

結果、各班からの調査報告ではha当たりの材積で800m³~900m³の報告となり、事前の調査結果の860m³と大きな差がなく参加者の目線が揃えられた結果となりました。



各班での予想材積の演習

4 おわりに

今回の研修を振り返り、参加された森林所有者からは、自己所有山林についても是非自身で調査し、今後の森林管理に役立てていきたいと話していました。

また、この研修を機会に森林組合等と連携しながら各集落に入り地域の森林所有者と交わりながら林業の普及指導を展開していきたいと考えています。